

2023 年度学童保育ひろば in 春日井レポート

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名 前】（ 大参凌久 ）

ひろばの中で、学童保育所としてコロナ 5 類移行後の生活の変化について各地域での意見交流の際に、コロナ禍前から指導員として就業されている方のお話で「コロナ禍前の状況には完全に戻ってはいないけど近い状態には戻りつつある」というお話がありました。コロナ禍で変化してしまった習慣も多くある中で、以前の生活に近づけて行けるような工夫やコロナを経験してこそ、工夫次第で良い方向に路線変更していくチャンスとも取れるとお話を聞いて感じました。様々な制約の中でも、大人の生活としてはオンラインでの研修などが多くなり、現地にいなくとも学べる機会が増加したように感じます。学童保育所での生活でも「密」を避けた行事や現場での対応など多くの制約がある中で生活を通して、新たな改善ポイントの発見にも繋がったのではないかと思います。

夏休み中の生活での変化としては、各地の指導員さんからは熱中症警戒アラートによる制約が多くあったとの報告が多かったように感じます。今年度に限らず、来年度以降にも暑さによる制限が生じる可能性も高いのではないかと感じ、生活していく上での工夫が必要だなと思いました。暑さの中でも子ども達は外遊びに出かけたいという気持ちがあり、指導員としても 1 日室内ではなく可能な限り外遊びに出かけてあげたいという気持ちがあります。そんな時に、暑さで全てを制限するのではなく、日中の一番暑い時間を避けて行動したりする事で少ない時間でも外に出かけることができる工夫をしていければと思いました。

騒音に関する問題提起もあり、各地の学童保育所の立地条件を聞く中であおぞらクラブがある場所はとても恵まれていて近隣の住民の方々との関係も良好であるように感じました。地域住民の方とのコミュニケーションの重要性や挨拶・ゴミ拾いなどの小さなことの積み重ねによってより良い関係性を築いていくことができればと感じました。学童保育所の運営には学童保育所だけの力では不可能であり、近隣住民の方の理解や周辺施設との関係が必要不可欠であると思うので地域で開催される行事には積極的に参加するなどして、まずは学童保育所の存在を地域の方に知ってもらうことが必要だなと感じました。